

Back by Popular Demand: From the Programs of 2014

# アンコール特集

2014年度上映作品より



大正十二年九月一日 帝都大震災大火災 大惨状

**N F C**  
小ホール

**京橋**

**映画**

**小劇場**

**KYOBASHI-ZA**

**No.30**

2015年5月8日金-5月24日日

※金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

**National Film Center**  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

# 小ホール 上映作品

**アンコール特集:  
2014年度上映作品より**  
Back by Popular Demand:  
From the Programs of 2014

フィルムセンターは《京橋映画小劇場》第30回企画として、昨年度の上映作品の中から、特に多数のお客様にご来場いただいた9プログラム(13作品)を、アンコール上映いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

**1 5/8(金)0:30pm 5/16(土)1:30pm**

**絵島生島**(126分・35mm・カラー)  
▶「日本の初期カラー映画」より  
江戸中期に起きた事件を題材にした舟橋聖一の新聞連載小説を映画化。御殿女中と人気役者の悲恋が権謀術の駆け引きと絡めて描かれ、大奥と歌舞伎の世界が色彩鮮やかに映し出される。マックスファクター社の日本代理店である東京綿花がメーキャップを担当し、日本人に適する化粧を指南した。  
1955(松竹京都)◎大庭秀雄◎舟橋聖一◎柳井隆雄◎石本秀雄◎濱田辰雄◎池田正義◎淡島千景、市川海老蔵、草笛光子、丹阿彌谷津子、三宅邦子、柳永二郎、須賀不二夫、加東大介、石黒達也、高橋貞二、高峰三枝子

**2 5/8(金)5:15pm 5/17(日)11:00am**

**点と線**(85分・35mm・カラー)  
▶「日本の初期カラー映画」より  
1958年、松本清張ブームが起こり、一気に計5本の映画化が実現する。本作は、そのブームの発端となったベストセラー長篇の映画化。海岸で発見された女性の情死体に隠された謎を、2人の刑事が突き止めようとする。イタリヤで開発されたフェラニアカラー方式を、日本で唯一用いた作品である。  
1958(東映東京)◎小林恒夫◎松本清張◎井手雅人◎藤井静◎田辺達◎木下忠司◎南廣、高峰三枝子、山形勲、堀雄二、加藤嘉、志村喬、小宮光江、月丘千秋、奈良あけみ、楠トシエ、河野秋武、三島雅夫、風見章子、光岡早苗

**3 5/9(土)11:00am 5/17(日)2:00pm**

**女の一生**(93分・35mm・白黒)  
▶「映画監督 増村保造」より  
杉村春子主演で名高い文学界の戯曲を、京マチ子主演で映画化。日露戦争中だった中の明治38年に商社の一家に養子として引き取られた少女けい(京)が、やがて商社を切り盛りする辣腕社長となるも一家の中で孤立していく姿を、アジア・太平洋戦争終結直後までの40年を通して描く。  
1962(大映東京)◎増村保造◎森本薫◎八住利雄◎中川芳久◎間野重雄◎池野成◎京マチ子、田宮二郎、叶原子、東山千栄子、小沢栄太郎、高橋昌也、浦路洋子、三木裕子、小山内淳、伊東光一、山中雄司、杉田康、響令子

**4 5/9(土)2:00pm 5/22(金)1:00pm**

**千羽鶴**(96分・35mm・カラー)  
▶「映画監督 増村保造」より  
川端康成のノーベル文学賞受賞記念映画。元々市川雷蔵による企画だが、雷蔵の体調不良により平幹二郎が起用された。増村と若尾文子の最後のコンビ作であり、若尾は終始、荒い息づかいと熱に浮かされたようなたたずまいで、かつて愛した男の息子を同様に愛してしまう女性を演じている。  
1969(大映東京)◎増村保造◎川端康成◎新藤兼人◎小林節雄◎渡辺竹三郎◎林光◎京マチ子、若尾文子、平幹二郎、梓英子、南美川洋子、船越英二、新宮信子、北林谷栄、目黒幸子、松村若代、福原真理子、三笠すみれ

**5 5/10(日)11:00am 5/22(金)5:00pm**

**関東大震災の記録映画**(計63分)  
▶「発掘された映画たち2014」より  
1923年9月1日の関東大震災の発生直後、文部省を含む複数の製作者が、この大災害を記録した。震災記録映画は全国各地で上映を求められた結果、既存フッテージの使いまわしやタイトルの改変、再編集などが横行し、大量の異版が生まれることになった。現在に至るまで、震災記録映画は当時正確に何本製作されたか不明で、現存するフィルムは少なくとも10本以上ある。

**大正十二年九月一日 帝都大震災大火災 大惨状**  
(27分・16fps・35mm・無声・白黒)  
2014年に東京都大田区の千束八幡神社から寄贈された可燃性ボジからの復元。冒頭に「撮影 東京シネマ商会」とあり、フィルムを保管していた缶には同商会の缶表が付いていたことから、同商会に文部省が撮影を委嘱した『関東大震災火災実況』(現存最長版は64分)の異版であると思われる(ただし中間字幕は既蔵のものとは異なる)。  
1923年頃◎芦川勢三、白井茂

**大震災中のいたまじき 大東京の大惨状**  
(10分・16fps・35mm・無声・白黒)  
記録映画社所蔵のインターネガから上映プリントを作成。こちらも『関東大震災火災実況』の異版と思われるが、既蔵フィルムにはない遺体の映像などが含まれている。  
1923年頃

**大正十二年九月 実寫 関東地方大震災**  
(20分・16fps・35mm・無声・染色)  
2013年に京都大学大学院工学研究科の地下書庫で発見され、2014年に当館に寄贈された可燃性染色ボジからの復元。当館既蔵の『関東大震災実況』(日活製作)などと同一のフッテージを多く含むが、大阪毎日新聞社から京都帝国大学に寄贈されたフィルムとされ、出自に不明な点が多い。きわめて鮮明な映像が保たれている。  
1923年頃  
**復興中の大東京 中野城西館附近**  
(6分・16fps・35mm・無声・白黒)  
2014年に東京都慰霊協会から寄贈された可燃性ボジからの復元。  
1927(東京高級映画製作所)

**6 5/10(日)2:00pm 5/23(土)10:30am**

ダウンタウン  
**下町**(58分・35mm・白黒)  
▶「映画監督 千葉泰樹」より  
林芙美子の同名小説を映画化。復員するはずの夫を待ちつづ、子供を抱えて行商で暮らしたる矢沢りよ(山田)は、シベリア復員兵(三船)と知り合い心を通わせるが、一瞬の迷いのために幸福を逃してしまう。  
1957(東宝)◎千葉泰樹◎林芙美子◎笠原良三、吉田彌彌◎西垣六郎◎中智◎伊福部昭◎山田五十鈴、三船敏郎、田中春男、多々良純、淡路恵子、村田知英子、沢村いき雄、中山豊、亀谷雅敏、土屋詩朗、佐田豊、広瀬正一

**みれん**(99分・35mm・白黒)  
▶「映画監督 千葉泰樹」より  
8年にわたり妻子を持つ小説家・慎吾(仲谷)と愛人関係にある知子(池内)の前に、かつての恋人・涼太(仲代)が落ちぶれた姿で現れる…。後悔や罪悪感を抱えた大人の男女の、愛することと生きることの相克が、衣服や照明の変化などを通して緻密に描かれる。1963年にTBSでドラマ化された瀬戸内晴美の短篇集を、同じ年に映画化。2012年にも『夏の終り』(熊切和嘉監督)として映画化された。  
1963(東京映画)◎千葉泰樹◎瀬戸内晴美◎松山善三◎西垣六郎◎小島基吉◎黛敏郎◎池内淳子、仲代達矢、仲谷英子、乙羽信子、岸田今日子、加東大介、沢村貞子、西村晃、山岡久乃、名古屋章

**7 5/15(金)1:00pm 5/23(土)2:00pm**

**水戸黄門 天下の副将軍**(94分・35mm・カラー)  
▶「日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界」より  
月形龍之介の「水戸黄門」シリーズ第12作で、シリーズ最高傑作とも評される1本。水戸のご老公が、実子で高松藩主の松平頼常(中村)が正氣を失ったという噂を聞きつけ、高松に赴いて真相を確かめる。人物たちを次々と関連づけていく小国英雄の洗練された脚本が見事。  
1959(東映京都)◎松田定次◎小国英雄◎川崎新太郎◎鈴木孝俊◎深井史郎◎月形龍之介、中村錦之助、東千代之介、里見浩太郎、丘さとみ、若山富三郎、三島雅夫、大河内傳次郎、山形勲、進藤英太郎、大川橋蔵、美空ひばり

**8 5/15(金)5:00pm 5/24(日)11:00am**

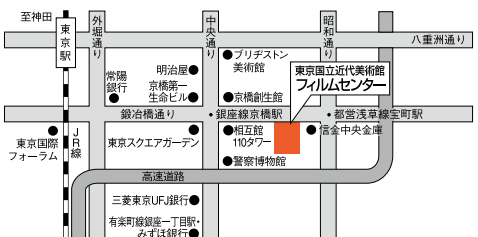
**任侠中仙道**(91分・35mm・カラー)  
▶「日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界」より  
片岡千恵蔵主演の「次郎長もの」オールスター映画の3作目。今回は何と国定忠治(市川右太衛門)が登場、信州で次郎長と対立した後、共に協力して悪を倒す。千恵蔵と右太衛門、両御方の活躍場面はほぼ同数にそろえられ、東映スター・システムは本作で絶頂に達する。  
1960(東映京都)◎松田定次◎比佐芳武◎川崎新太郎◎鈴木孝俊◎富永三郎◎片岡千恵蔵、中村錦之助、大川橋蔵、東千代之介、中村賀津雄、若山富三郎、伏見扇太郎、里見浩太郎、黒川弥太郎、山形勲、薄田研二、大友柳太朗、月形龍之介、大河内傳次郎、市川右太衛門

**9 5/16(土)10:30am 5/24(日)1:30pm**

**パッチギ!**(119分・35mm・カラー)  
▶「自選シリーズ 現代日本の映画監督3 井筒和幸」より  
井筒監督による青春娯楽映画の代表作。1968年の京都、日本人と在日朝鮮人の高校生が、民族と国境の壁にぶつかりながらも恋をし、ケンカに明け暮れる。分断と融和を象徴する楽曲として「イムジン河」が繰り返し用いられ、印象深い。「キネマ旬報」ベストテン第1位ほか、数々の映画賞を受賞。  
2005(「パッチギ!」製作委員会)◎井筒和幸◎松山猛◎羽原大介◎山本英夫◎金田克美◎加藤和彦◎塩谷瞬、高岡蒼佑、沢尻エリカ、オダギリジョー、楊原京子、真木よう子、尾上寛之、波岡一喜、小出恵介、キムラ緑子、ケンドーコバヤシ、木下ほうか、徳井優、笑福亭松之助、坂口拓、前田吟、光石研、加瀬亮、余貴美子、大友康平

- ◎=監督 ◎=原作・原案 ○=脚本・脚色 ●=撮影
- ▲=美術 ♪=音楽 ♫=出演
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

●《京橋映画小劇場》とは  
平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、これまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図っています。  
フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



フィルムセンター 〒104-0031東京都中央区京橋3-7-6  
▼交通:  
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線京橋駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: 1-03-5777-8600  
NFCホームページ:  
<http://www.momat.go.jp/>  
NFC携帯電話ホームページ:  
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

	金曜日	土曜日	日曜日
5月	0:30pm 1 絵島生島	11:00am 3 女の一生	11:00am 5 関東大震災の記録映画
	5:15pm 2 点と線	2:00pm 4 千羽鶴	2:00pm 6 下町みれん
	1:00pm 7 水戸黄門 天下の副将軍	10:30am 9 パッチギ!	11:00am 2 点と線
	5:00pm 8 任侠中仙道	1:30pm 1 絵島生島	2:00pm 3 女の一生
	1:00pm 4 千羽鶴	10:30am 6 下町みれん	11:00am 8 任侠中仙道
	5:00pm 5 関東大震災の記録映画	2:00pm 7 水戸黄門 天下の副将軍	1:30pm 9 パッチギ!

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。